

もっと海事科学部を知るための8つの質問 Q&A

Q 船舶実習について教えてください。

A 海事科学部では、従来、1年次に全員が船舶実習を履修していましたが、平成25年度入学者からは、次の学科に配属された学生のみ、2年次に以降に船舶実習を履修します。

- グローバル輸送科学科
- マリンエンジニアリング学科

船舶実習の配当年次

下記は卒業要件です。なお、海技免許(航海士、機関士)を取得するためには「船舶実習(1~3)」を修得の上、学部卒業後の乗船実習科において6か月の船舶実習が必要です。

学科コース	海洋安全システム科学科		グローバル輸送科学科		マリンエンジニアリング学科	
	コースA	コースB	コースC	コースD	コースE	コースF
1年次	なし					
2年次	なし	船舶実習1(選択)	なし	船舶実習1(必修)	なし	なし
3年次	なし	船舶実習2(必修)	なし	船舶実習2(選択)	なし	なし
4年次	なし	船舶実習3(選択)	なし	船舶実習3(選択)	なし	なし

*必修=必修科目、選択=選択科目
*海技教育(船舶職員養成教育)は、グローバル輸送科学科航海マネジメントコースおよびマリンエンジニアリング学科機関マネジメントコースで行います。

Q オープンキャンパスについて、教えてください。

A 海事科学部では、毎年8月上旬に、高校生・受験生を対象としたオープンキャンパスを深江キャンパスで実施しています。学部・入試説明会はもちろん、研究紹介、研究施設訪問ツアー、深江丸洋上ゼミ、相談コーナーなどを企画しています。詳しくは、海事科学部ホームページをご覧ください。



Q 入試教科・科目について、教えてください。

A 一般入試においては、まず大学入試センター試験で、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語から5教科7科目を受験する必要があります。前期日程では、数学、理科、外国語(英語)、後期日程では、数学、外国語(英語)が出題されます。その他、AO入試、推薦入試も実施しています。詳しくは、海事科学部ホームページをご覧ください。

Q 文系出身でも学びについていけますか?

A 海事科学部では、入試受験科目に数I・数II・数III・数A・数B・数C・理科(物I・IIを含む2科目)を課しており、文系向けの学習だけでは、合格は難しいかもしれませんが、入学後も、高校で数学・物理学が既習であることを前提とした科目が開講されます。

Q 学費はどのくらいかかりますか?

A 入学金が282,000円、授業料(年額)が535,800円です(平成24年度実績)。なお、入学金・授業料の納付が困難な学生については、免除制度、徴収猶予制度があります。詳しくは、神戸大学ホームページ(<http://www.kobe-u.ac.jp/>)の「教育・学生生活」のページをご覧ください。

Q どのような奨学金制度がありますか?

A 最も多くの学生が受けている奨学金は、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO、旧日本育英会)の奨学金(貸与)です。その他、海事科学部独自の奨学金や、出身地・居住地による地方奨学金、企業による奨学金などがあります。詳しくは、神戸大学ホームページの「教育・学生生活」のページをご覧ください。

Q 一人暮らしをしたいのですが、学生寮はありますか?

A 神戸大学の学生寮は、白鷗寮(男子・女子、神戸市東灘区)、住吉寮(男子、同東灘区)、住吉国際学生宿舎(男子・女子、同東灘区)、国維寮(男子・女子、同東灘区)、女子寮(同東灘区)があります。このうち、海事科学部に最も近い学生寮は、白鷗寮(深江キャンパスまで徒歩10分)です。詳しくは、神戸大学ホームページの「教育・学生生活」のページをご覧ください。

Q クラブやサークル活動は活発ですか?

A 多くの学生が、六甲台キャンパスに活動拠点を置く各種クラブ・サークルに入部しています。また、深江キャンパスに活動拠点を置く公認団体としては、海事科学部硬式野球部、カッター部、カヌー部があります。その他、深江キャンパスでは、ヨット、テニス、バレー、サッカー、ラグビー、軽音楽などのサークルが活動しています。

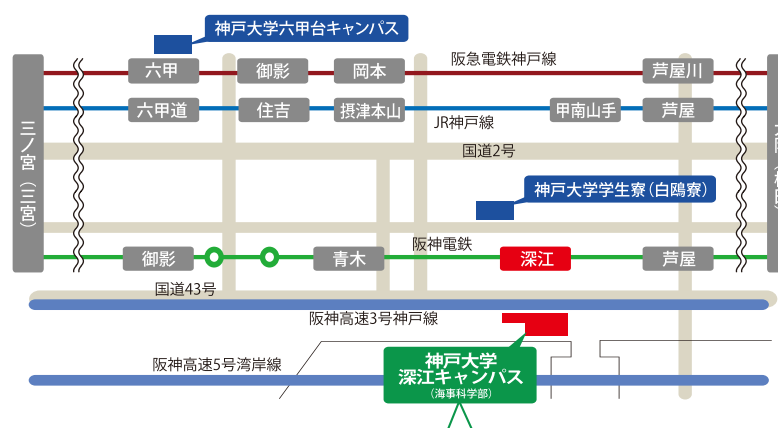


Globe Global Globalism

人と環境のための
インターフェイスとして活躍する



神戸大学 アクセス



■深江キャンパスへのアクセス

阪神電鉄「深江」駅から南西へ徒歩約10分。
JR神戸線「甲南山手」駅から南西へ徒歩約20分。

■六甲台キャンパスへのアクセス

阪神電鉄「御影」駅、JR神戸線「六甲道」駅、阪急電鉄神戸線「六甲」駅から神戸市バスに乗車(バス系統および停留所は目的地により異なります)。



国際都市神戸に位置する神戸大学は、「異文化との交流」を重視する国際性豊かな総合大学です。現在、人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命・医学系の4大学術系列の下、11学部・14大学院・1研究環・1研究所と多数のセンターを擁しています。「知の生命体としての大学」をめざし、教育・研究はもちろん、社会貢献のための活動も積極的に推進します。

神戸大学 海事科学部

深江キャンパス

海事にまつわる学際的分野を学ぶ海事科学部は、ハイパー中枢港湾の阪神港に立地。その利点を生かし、実践的に海事科学を学ぶことができます。



神戸大学海事科学部
大学院海事科学研究科

〒658-0022
神戸市東灘区深江南町5丁目1-1
<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/>

●お問い合わせ
(入試・オープンキャンパスに関するお問い合わせ) 海事科学部学生係 TEL.078-431-6225
(その他のお問い合わせ) 海事科学部(代表) TEL.078-431-6200

[2012年7月17日改訂]
このリーフレットは2013年4月の学科改組後の海事科学部を案内しています。内容は予定であり、変更される場合があります。変更が生じた場合には、神戸大学海事科学部ホームページ <http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/> にてお知らせします。

神戸大学 海事科学部

科学・技術を人の生活と地球環境のために活かす インターフェイスとして活躍します

放射線の測定などによる環境安全の分析

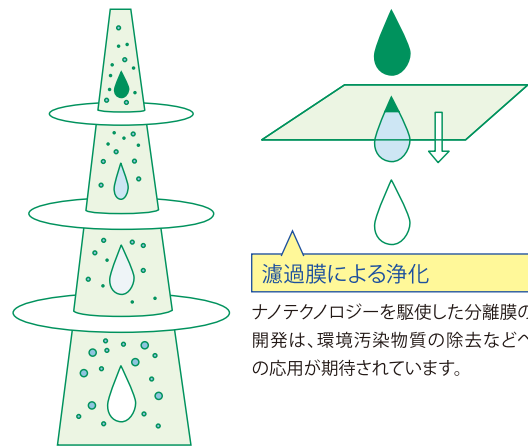
さまざまな環境中の放射線量を測定したり、原子力発電所から出る放射性物質を管理するなど、安全・安心な環境づくりに貢献します。



ヒト・モノ・情報が国境を越えて行き交うグローバル化時代の今、エネルギーや環境に関わる地球規模での問題の解決が急務です。海に囲まれた海洋立国・日本が、生活の安全と環境保全という人類全体の課題解決に貢献し、自らの競争力を維持・強化するには、海洋の開発・活用・保全が不可欠です。海事科学部では、環境としての「Ocean=海洋」だけではなく、海洋を舞台にした人間活動、つまり「Maritime=海事」を対象とし、自然界におけるエネルギー・物質循環と資源や生産財のグローバルな輸送・物流について総合的に学びます。学際的な知識と専門的な問題解決能力=研究能力を備えた人材を育てます。

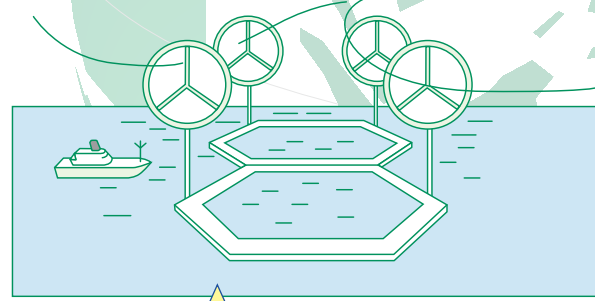
濾過膜による浄化

ナノテクノロジーを駆使した分離膜の開発は、環境汚染物質の除去などへの応用が期待されています。



風力発電・海洋発電

クリーンでエネルギー自給が可能な洋上風力発電を推進することで、環境・エネルギー問題の解決をめざします。

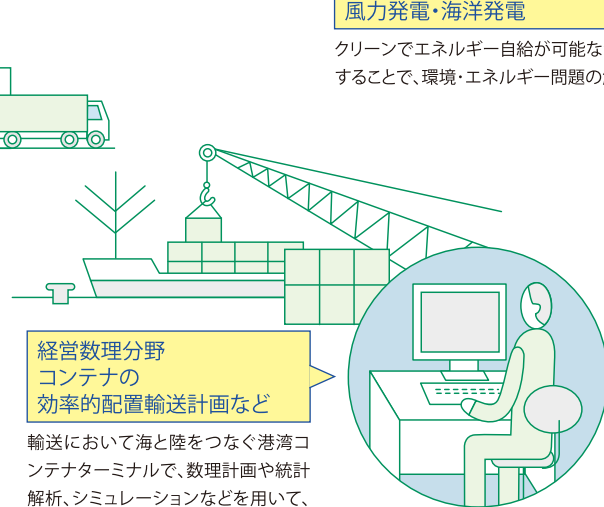


船舶運航管理、港湾管理、海事行政

日本の港湾の国際競争力を強化し、東アジアの重要な国際ハブ港を実現するため、港湾の管理・行政を担う人材は強く求められています。

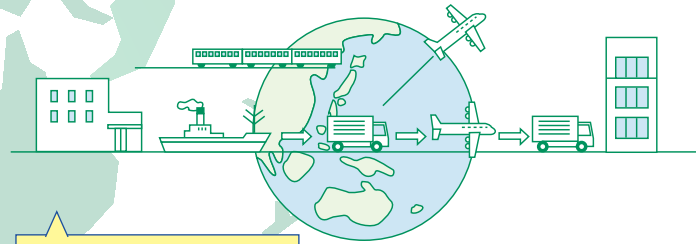
経営数理分野 コンテナの 効率的配置輸送計画など

輸送において海と陸をつなぐ港湾コンテナターミナルで、数理計画や統計解析、シミュレーションなどを用いて、高効率な運用を担います。



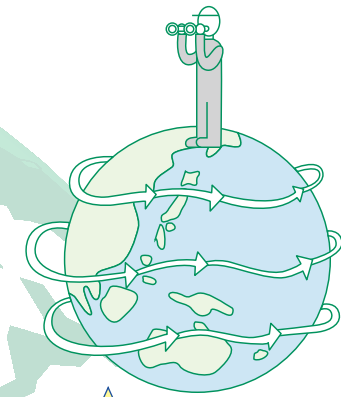
輸送計画、輸送ネットワーク

経済学的見地からグローバルな物流・輸送の流れを解明し、最適な輸送システムを構築します。



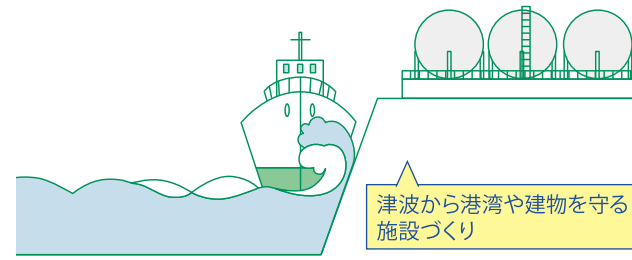
地球規模の気流や海流の分析

海洋・気象観測やシミュレーションなどにより、海上における温暖化ガスの流れや、船舶の安全運航に最適な海洋・気象を考えます。



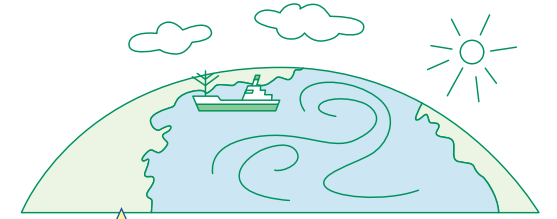
津波から港湾や建物を守る施設づくり

津波のシミュレーションを行うなど、港湾・船舶の被害を最小化するリスクマネジメントにより、安全・安心な社会づくりに寄与します。



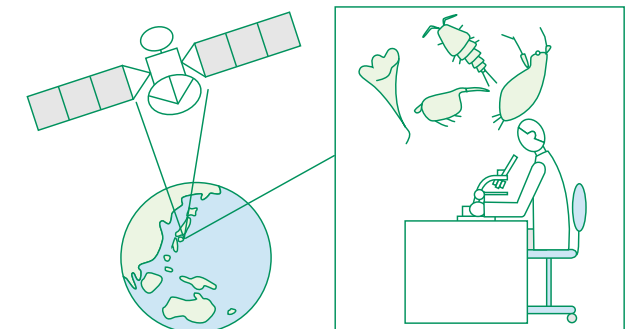
地球環境を把握し、安全航行を確保する

GPSで波浪を把握する。電子海図応用システムにより海洋関連情報を収集する。船・人・環境・社会の連関システムを国際的視野から管理運営します。



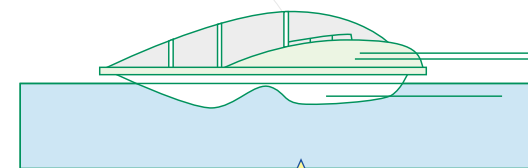
赤潮等発生状況などの環境を衛星から観測 海洋環境と微生物の分析

人工衛星から海洋環境を観測し、海事活動の生態系への影響や赤潮発生のメカニズムを分析するほか、微生物を利用した海水浄化システムを開発します。



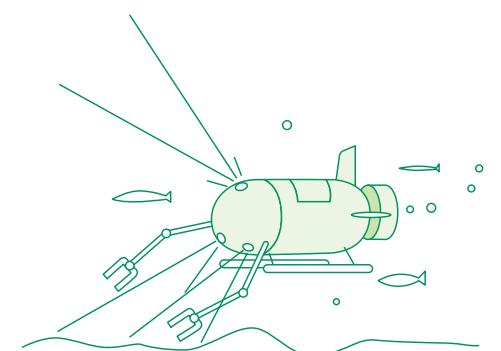
超伝導船・エコシップ

超伝導・新機能性材料の物性を海事分野に応用することで、電流と磁界によって海水を押し出して進む、スクリューのない超伝導船を開発します。



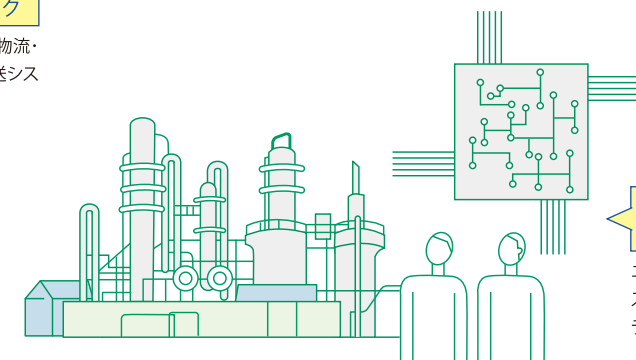
海洋ロボット開発

メカトロニクスや流体力学などを駆使した海底探査機の開発は、エネルギー資源に乏しい日本において今注目されている先端分野です。



エネルギープラントの設計管理 エンジン、船舶運航、電気・電子・機械技術

エネルギーの効率的な利用や、メカトロニクスに関する知識・技術を備え、エネルギープラントの設計管理や船舶の運航を担います。



新・海事科学部スタート!

神戸大学海事科学部のルーツは、1917年、川崎造船所の創立者川崎正蔵氏の遺志により、その子芳太郎氏が設立した私立川崎商船学校にまで遡ります。1920年、官立の神戸高等商船学校に昇格し、1952年、国立の神戸商船大学が設置されました。そして2003年に神戸大学と統合し、神戸大学海事科学部になりました。100年近い年月の中で受け継がれてきた伝統。それは、国際的に活躍する進取の精神です。経済のグローバル化と、地球規模の環境問題の深刻化が進む中、それらを両立させる持続可能社会の実現をめざし、本学部は2013年度より新しく生まれ変わります。



生まれ変わった海事科学部

安全性や効率性、環境保全の観点から、地球規模での輸送・物流を最適化する。海事を通して、地球環境保全やエネルギー確保、災害対策などを考察する。機械工学、電気電子工学、エネルギー工学など工学分野を広く学び、安全評価や環境保全技術、新エネルギー開発に取り組む。海事科学部には、人文・社会科学分野から自然科学分野まで、幅広い学問フィールドが広がっています。

新しい学科構成

海洋安全システム科学科

ココが変わる!

海洋環境・エネルギー・安全の分野を統合し時代に即応したカリキュラムへ進化

輸送の安全・安心に関する研究成果をベースに、安全・安心な社会の構築に寄与する人材を養成します。地球環境科学についての基礎を身につけた上で、港湾施設や沿岸域の防災・減災、環境計測と自然エネルギー開発、放射線科学、環境保全のための機能性材料開発に関する研究・教育に取り組みます。

環境にやさしい賢い機能性材料を開発

環境の未来を見据え 洋上風力発電を研究

4年生 見崎 豪之さん

中学時代から気象や地震のメカニズムに興味がありました。海事科学部は船員養成だけでなく、気象学を含め、多様な分野を学ぶことができるので、進学を決意。「基礎ゼミ」で気象予報士の資格取得をめざして学び、現在は海象気象研究室に所属しています。洋上風力発電をテーマに、洋上観測や人工衛星データ、シミュレーションなどを用いて、海上における風の流れを研究。将来は、環境・エネルギー分野で働きたいと考えています。

学生 VOICE

グローバル輸送科学科

ココが変わる!

大陸と大陸を繋ぐグローバル輸送を、理工系学問をベースにマネジメントする人材を育成

工学や情報科学とともに、経済・経営・法学分野の科目も充実しています。物流の現場を担う海事技術者を養成する科目を包含する「航海マネジメントコース」とより広く交通・輸送にかかわる経営管理のスペシャリストを養成する「ロジスティクスコース」の2コースを開設。それぞれにさらなる専門性の追究が可能です。

港湾ターミナルの 高効率な運用方法を研究する

工学から法学まで 学際的に海事を学ぶ

4年生 森 瑞穂さん

高校は文系でしたが、数学や物理が好きだったので、文理の枠を超えて学べる本学部を選択。低年次に工学や経済・経営・法学などを幅広く学び、今は工学を中心に学んでいます。3年次の夏にはカリフォルニア海事大学に留学し、海事安全管理を学習。現地学生と共に英語で授業を受け、専門性や語学力、主体性を培いました。国際舞台で働くという目標も定まり、学科を超えて海事国際法研究室に所属。将来は海事行政に携わりたいと思っています。

学生 VOICE

マリンエンジニアリング学科

ココが変わる!

要素技術とプラントの全体という「部分と全体」が見渡せる 総合エンジニアを育成

機械工学と電気・電子工学、環境科学をバランスよく学びます。大型船舶の海事技術者を養成する科目を包含する「機関マネジメントコース」と、熱・材料・流体・環境に関わる要素技術の学理を学ぶ「メカトロニクスコース」の2コースを開設。広い範囲の工学・情報科学を学んだ上で、専門的な研究テーマに取り組めます。

工学に基づき、海の最先端分野を研究

理論と実践の両面から 海事技術を追及する

4年生 尾崎 瑠菜さん

入学前は船舶職員志望ではなく、理工学を広く学ぶために進学。同じ理系でも、工学部は実験がメインですが、海事科学部は「工学+α」の学びが魅力。1年次に海事科学の基礎に加え、週4日六甲台キャンパスで他学部学生と共に教養科目を学びました。また「船舶実習」では、舵を操作するなど、機関士の仕事を体験。ここでしかできない実学に満足しています。「同じ釜の飯を食った」仲間と切磋琢磨し、機関士になることが今の目標です。

学生 VOICE

海洋安全システム 科学科

海洋の環境や安全に関する 専門性と総合性を身に付ける

海域の健全性維持、海域にかかる安全・安心な社会の維持、海洋の開発・活用・保全といった海洋立国・日本の重要課題に即応するため、地球環境保全やエネルギーの安定確保、海域災害の安全対策を考察します。

グローバル輸送科学科

航海分野と交通運輸分野の グローバルリーダーをめざす

グローバル化に対応し、国際物流の基盤を支える輸送体系の高度化に貢献するための研究・教育を展開。航海システムの船舶運航・管理技術と、海上以外にも応用可能な交通運輸の経営管理について学際的に学びます。

マリンエンジニアリング 学科

工学を広く学び 高度な技術を培う

船舶をはじめ、海洋に関連する機械・構造物の運転・運用について高効率化や環境負荷低減を図り、低炭素社会を実現するため、海事分野におけるエネルギー利用、メカトロニクス技術に関する学理を追及します。

1年次

全学共通科目

英語教育を強化し 英語に触れる機会が拡大

効果的に英語能力を高められる習熟度別クラスを導入。また、航海マネジメントコースに「海事英語」、機関マネジメントコースに「機関英語」を新設します。

学部共通科目

基礎的な科目

コミュニケーション英語
ライティング英語
応用数学
海事理化学実験 など

Close Up

1年間じっくり学び 2年次に学科を選択

学部一括で入学し、2年次以降の専門分野へスムーズに移行できるよう、1年次に学部共通科目を設置。海事に関する基礎を学ぶ科目を追加し、導入科目が充実します。

Close Up

英語教育を強化し 英語に触れる機会が拡大

効果的に英語能力を高められる習熟度別クラスを導入。また、航海マネジメントコースに「海事英語」、機関マネジメントコースに「機関英語」を新設します。

Close Up

六甲台キャンパスで 他学部の学生と共に学ぶ

入学から所属学科を選ぶまで1年間、週4日六甲台キャンパスで他学部学生と共に学習。幅広い教養を身に付けるほか、サークル活動などを通して、友人の輪も広がります。

2年次

前期

学科専門基礎科目

物理化学 応用数学 流体力学 材料力学
知能情報処理論 自然エネルギー工学 資
大気環境学 地球流体力学 環境修復論

後期

他学部開設科目

Close Up

広い学問 2年次後

1年次で専攻分野の基礎を学び、2年次に専門性を深め、幅広い所属コース

Close Up

教員1人につき学生2人の 少人数教育「基礎ゼミ」

教員1人につき学生2~4人という、少人数制の「基礎ゼミ」を2年次に開講。学び方やコース選択のアドバイスなど、教員や先輩学生が、きめ細かく指導してくれます。

Close Up

入学から卒業まで一貫した「クラス担任制度」を実施

各学科に2~4人の教員が、クラス担任として4年間一貫して、学生一人ひとりをサポート。これは神戸商船大学時代からの伝統であり、学外からも評価が高い制度です。

他学部開設科目

国際経済法(法学部)
国際経済基礎論(経済学部)
国際貿易(経営学部)
海洋生物学(理学部)
など
(4年次に開講)

学科共通科目

機構学
電気回路
制御理論
工業熱力学
流体力学
機械製図
船舶実習1 など

3年次

前期

学科専門基礎科目

物理化学 応用数学 流体力学 材料力学
知能情報処理論 自然エネルギー工学 資
大気環境学 地球流体力学 環境修復論

後期

他学部開設科目

Close Up

広い学問 2年次後

1年次で専攻分野の基礎を学び、2年次に専門性を深め、幅広い所属コース

Close Up

教員1人につき学生2人の 少人数教育「基礎ゼミ」

教員1人につき学生2~4人という、少人数制の「基礎ゼミ」を2年次に開講。学び方やコース選択のアドバイスなど、教員や先輩学生が、きめ細かく指導してくれます。

Close Up

入学から卒業まで一貫した「クラス担任制度」を実施

各学科に2~4人の教員が、クラス担任として4年間一貫して、学生一人ひとりをサポート。これは神戸商船大学時代からの伝統であり、学外からも評価が高い制度です。

他学部開設科目

国際経済法(法学部)
国際経済基礎論(経済学部)
国際貿易(経営学部)
海洋生物学(理学部)
など
(4年次に開講)

学科共通科目

機構学
電気回路
制御理論
工業熱力学
流体力学
機械製図
船舶実習1 など

航海マネジメントコース

ロジスティクスコース

機関マネジメントコース

メカトロニクスコース

第一専門 航海学 船舶安全 海事法規

輸送計画 国際物流 経営数理 離散数学

研究室 「総合」 4年次から、3年次活動も、先生

第一専門 伝熱工学 機械設計 材料加工 内燃機関 冷熱工学

科学部で、どう学ぶ？

地球上の物質循環とグローバル輸送を対象とした総合科学を展開

本学部で、総合的・学際的・国際的に学び、高度な専門性と幅広い教養を身に付けた人材は、海事関連企業はもちろん、産業界のさまざまな分野で活躍することが可能です。また、学部卒業後、学生の多くは大学院海事科学研究科に進学し、さらに専門性を追究。幅広い応用力と開発能力を備えた人材には、数多くの企業から求人が寄せられています。

TOPICS 理系学部で全国1位の就職率100%を実現！

週刊東洋経済「本当に強い大学2011」(2011年10月22日号)の「大学就職率ランキング」において、神戸大学海事科学部が理系学部で全国1位と紹介されました。就職率100%(2011年3月卒業生実績)という、本学部がこれまでに築き上げてきた就職実績が、社会から高く評価されている証しといえます。



2年次
後期
数学 流体力学 材料力学 電気電子工学 電磁気学 制御理論 数値計算科学
自然エネルギー工学 資源工学 海洋安全システム科学通論 海洋安全システム科学実験
球流体力学 環境修復論 など

3年次
前期
学科専門科目 <船舶安全・エコ技術分野>
次世代安全運航論 浮体運動力学 超伝導工学 水素エネルギー工学
エコエネルギー変換工学 機能性無機材料 機能性有機材料 など
<環境評価・分析分野>
海洋観測解析論 衛星海洋学 環境シミュレーション学 環境放射能動態学
サブアトム物理化学 海洋分子生物学 環境分析化学 粒子ビーム応用分析学 など

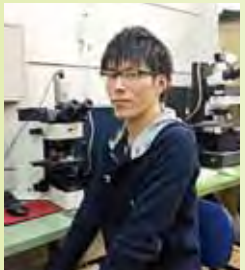
他学部開設科目 環境経済論(経済学部) 海洋生物学(理学部) 海洋環境科学(理学部) 海岸・湾岸工学(工学部) 地震安全工学(工学部) など

FUTURE

養成する人材像
▶総合的カリキュラムを通して、基礎的な知識や手法を横断的に応用できる人材
▶特定の専門分野について問題解決・対案提示ができる人材
▶体験的・実践的科目を活用して論理的・発展的・戦略的・多面的に物事を見ることのできる人材

進路イメージ
▶機械・プラント産業技術者
▶シシクタンク(海洋環境・エネルギー・安全に関する研究機関)
▶海事・海洋・港湾関連行政職
▶大学院進学 など

Messages from Graduates



森本 彰 さん
国土交通省 大臣官房 官庁営繕部勤務
2010年3月、海事科学部卒業
2012年3月、海事科学研究科博士課程前期課程修了

学術的かつユニークな学問体系と「自由度の高い学び」が魅力

進路に悩んでいた高3の時、先生から紹介されたのが海事科学部。ここなら興味ある理学や工学を幅広く学べると考え、受験を決めました。入学してみると、学部名から連想される船舶の関連分野だけでなく、放射線工学や分子生物学、電気工学、材料工学などの自然科学から経済学、経営学、法学などの社会科学まで、幅広い領域を学ぶことがわかります。各分野の第一線で活躍されている先生方の講義を受け、2年次の学科配属まで「何を学びたいか」をじっくり考えることが可能です。私は、講義で学んだ理論や現象を実際に確認できた「海事理化学実験」に刺激を受け、理工学を中心に学ぶ学科を選択。3年次後期から大学院博士課程前期課程にかけて、放射線検出器に用いられる高分子素材について、放射線照射による反応の定量的評価を研究しました。勤務先では主に建築物の耐震化を担いますが、大学で養った専門性と学際性、コミュニケーション能力を生かし、技術者や関連部署と連携し、仕事を進めたいと考えています。



尾田 恵梨奈 さん
(株)商船三井 勤務
2012年3月、海事科学部卒業

海にまつわる多様な学びを通して自分らしい“針路”を発見

海事科学部と聞くと、海に関することを学ぶのかなと思うのではないでしょうか。実際にその通りです。幅広い学問領域から海にアプローチし、その中から興味のある分野を選び、深く追究していきます。私が海事科学部を知ったのは高校の時。担任の先生から紹介され、航海士に興味を抱き、進学を決めました。1年次は六甲台キャンパスで他学部の学生と共に教養を広く学びます。また「乗船実習」では、航海士の仕事を間近に見て、憧れが確信に変わりました。2年次に船員養成コースを選択し、3年次からは海洋環境の研究室に所属。次世代船舶燃料の排出ガスに含まれる陰イオンを計測し、環境影響を調査しました。分子構造といったミクロな差異が、地球環境というマクロにどう影響を与えるか。それを解明することが研究の醍醐味です。研究活動で培った視点は、就職活動で企業の環境に対する姿勢を見極めるのに役立ちました。今後は、大学での学びを生かし、航海士として安全運航を心掛けたいと考えています。

総合大学での充実した学生生活が専門外の建設業への道につながった

幅広い分野から自分の方向性を見つけられると考え、海事科学部を志望。学部一括で入学した後に、学科を選べる点も魅力でした。低学年ゼミなどを通して、経済や生物、材料、気象、システム、安全、情報など、想像以上に幅広く学ぶことができます。私は認知心理学研究室でグループ効果を研究。これは、赤色と青色で書かれた「あか」という文字の意味を答える場合、後者がより時間を要するという、2つの情報が干渉し合う現象です。人間工学や教育工学など応用分野の学会に参加しながら専門性を深めました。現在は建設業界で、主に中央監視設備を建物に導入する業務を担当。さまざまな人と協力することに魅力を感じ、この仕事を選びました。他学部の学生と活動した野球部の経験も、建設業に進む契機になったように思います。研究テーマと直結しない仕事ですが、大学で培った「伝える力」は今に生きていると実感。今後も、人とのつながりを大切にして仕事に励みたいと思います。

目
数学 流体力学 材料力学 電気電子工学 電磁気学 制御理論 数値計算科学
自然エネルギー工学 資源工学 海洋安全システム科学通論 海洋安全システム科学実験
球流体力学 環境修復論 など

航海マネジメントコース

ロジスティクスコース

機関マネジメントコース

メカトロニクスコース

Close Up
広い学問領域に触れた上で2年次後期にコースを選択
1年次で全学共通科目や学部共通科目を、2年次に専門的な内容を扱う学科共通科目を履修。幅広く学び、自分の適性を見極めた上で、所属コースを選ぶことができます。

Close Up
グローバルな人材を育てる国際プログラムが充実
3・4年次の夏季にカリフォルニア海事大学で2週間、海事安全管理と実用英語を学ぶ海外研修を実施。受講者は学業成績と英語能力を基に選考し、渡航経費は学部が負担します。

Close Up
海技者養成コースのカリキュラムを高度化
これまで三級海技士免許取得に必要な科目群(35単位)を卒業必修科目にしていましたが、一部科目を除外。代わりに、基礎科目を強化するとともに、関連科目の体系化を進めます。

第一専門科目
航海学 操船学 船舶工学 航海計器学
船舶安全学 海上交通法 海洋気象学
海事法規 船舶実習 など

第二専門科目
海上交通工学 流体力学 材料力学
電気電子工学 海難論
海事実用英語 など

他学部開設科目
国際法(法学部) 国際経済法(法学部) など

Close Up
より学際的に学べるよう他学部開設科目が拡大
海事科学は学問領域が広いと、並行して多様な他学部開設科目を履修できるよう工夫されています。従来の4学部9科目から5学部17科目に拡大し、専門性の深化を図ります。

輸送計画分野 国際物流論 交通政策論 交通計画 輸送ネットワーク論 ロジスティクス通論 ターミナル運営計画 など

経営数理分野 離散数学 数理計画法 確率モデル論 経営管理論 戦略的意思決定論 情報管理論 リスクマネジメント論 など

他学部開設科目 国際貿易(経営学部) グローバル・マーケティング(経営学部) 交通論(経営学部) 国際経済論(経済学部) など

Close Up
研究室に仮配属する「総合ゼミ」を導入
4年次からの研究をスムーズに進められるよう、3年次後期から研究室に仮配属します。研究活動はもとより、就職や大学院進学についても、先生や先輩に相談することが可能です。

Close Up
学会発表に必要な費用をサポートする制度が充実
本学部では、学会発表の参加費用を支援する、学部独自の制度を設置。学生が自分の意見や考えを述べるチャンスを豊富に提供し、社会のあらゆる分野で必要な基礎力を養います。

第一専門科目
伝熱工学 機械振動学
機械設計学 材料加工学
内燃機関工学 冷熱エネルギー学 など

第二専門科目
燃料燃焼及び潤滑論 推進工学
船舶機関管理論 海事機関英語 海事法規
リーダーシップ 運動科学
船舶実習2 など

Close Up
「船舶実習」の必修を廃止し、コースに特化した高度な実践に
2013年度より「船舶実習」の1年生全員必修を廃止。新たに、航海マネジメントコースと機関マネジメントコースの3年次に実施。海事者養成コースに特化した内容へと発展します。

第二専門科目
材料強度学 流体機械 電子回路
数値シミュレーション工学
電気電子材料学 パワーエレクトロニクス
超伝導工学 など

養成する人材像
▶社会科学および自然科学の知識を縦横断的に活用できる力を備えた人材
▶実習・演習を通して、リーダーシップやコミュニケーション能力を身に付けた人材
▶三級海技士(航海) ▶高等学校教諭(商船)

進路イメージ
▶船舶職員 ▶船舶運航管理者
▶港湾管理者 ▶海事行政官
▶大学院進学 など

養成する人材像
▶柔軟な思考方法で積極的に問題解決に取り組める人材
▶交通運輸分野において企画・立案・分析・管理できる能力を身に付けた人材

進路イメージ
▶交通運輸産業(物流、商社、情報など) 管理部門
▶中央・地方行政官
▶大学院進学 など

養成する人材像
▶船舶機関管理分野の国際的リーダー
▶船舶運航に関する実践力を身に付けた人材
▶三級海技士(機関)
▶高等学校教諭(商船)

進路イメージ
▶船舶職員(機関士) ▶船舶管理監督者
▶海事行政官(船舶検査、海技試験、港湾設備)
▶大学院進学 など

養成する人材像
▶工学基礎と機械電子の専門基礎を修得した人材
▶各種輸送機械、エネルギープラントの設計管理、船舶の運航を担う人材
▶関連政策立案に携わることができる人材

進路イメージ
▶船用機器技術者 ▶プラントエンジニア
▶造船・重工業技術者 ▶中央・地方行政官(海事、運輸)
▶大学院進学 など

石坂 洋輔 さん
清水建設(株) 勤務
2008年3月、海事科学部卒業
2010年3月、海事科学研究科博士課程前期課程修了

主な就職先

平成23年度海事科学部卒業生

電機	オムロン(株) 富士通(株) 三菱電機(株) (株)神戸製鋼所 新日本製鐵(株) 日立製作所(株) 日立LIXIL(株) 内海造船(株) ナブテスコ(株) ナシマプロペラ(株) ダイハツディーゼル(株) 三菱自動車(株) ツネインホールディングス(株) 常石造船(株) アシン精機(株) (株)トウネツ コベルコ建機(株) (株)クボタ	商社・部 小売業 NTTコミュニケーションズ(株) (株)ハーバーソフトウェア (株)日立ソリューションズ (株)日立ソリューションズ (株)日立ソリューションズ 丸三証券(株) 福岡信用金庫 呉信用金庫 一般財団法人日本海事協会 (株)マルハン (株)インテリジェンス テラテック(株) (株)タツミコーポレーション 朝日放送(株) 関西設計(株) (株)ヤスナ設計工房
金属・化学 原子力	鍛冶重敏工(株) 日本原子力発電(株) (株)LIXIL 内海造船(株) ナブテスコ(株) ナシマプロペラ(株) ダイハツディーゼル(株) 三菱自動車(株) ツネインホールディングス(株) 常石造船(株) アシン精機(株) (株)トウネツ コベルコ建機(株) (株)クボタ	情報・通信 金融・保険 サービス
輸送用機器	内海造船(株) ナブテスコ(株) ナシマプロペラ(株) ダイハツディーゼル(株) 三菱自動車(株) ツネインホールディングス(株) 常石造船(株) アシン精機(株) (株)トウネツ コベルコ建機(株) (株)クボタ	金融・保険 サービス
機械・プラント	(株)トウネツ コベルコ建機(株) (株)クボタ	サービス
建設・海洋開発	日揮(株) (株)商船三井 川崎汽船(株) 日本郵船(株) 宮崎カーフェリー(株)	官公庁・その他 神戸市役所 (株)海上災害防止センター
海運	川崎汽船(株) 日本郵船(株) 宮崎カーフェリー(株)	官公庁・その他 神戸市役所 (株)海上災害防止センター
倉庫・物流	川西倉庫(株) (株)ユニエックス 山九(株) 三菱倉庫(株) (株)ニチレイロジグループ本社 住友物流(株) 住友金属物流(株) 丸田通商(株) (株)日立物流 (株)日新 日本貨物鉄道(株) センコー(株) (株)辰己商会	倉庫・物流

平成24年9月乗船実習科修了予定者

海運	(株)商船三井 川崎汽船(株) 日本郵船(株) 船岡汽船(株) 新日本海フェリー(株) (株)フジマツリタイムサービス 太平洋日本汽船(株) ワールドマリン(株) 美濃須海運(株) イースタンマリンシステム(株) NSユニテッド海運(株) JX日鉱日石タンカー(株) 第一中央汽船(株) 飯野海運(株) レインボーマリンタイム(株) JX日鉱日石 Shipping(株)	建設・海洋開発 国際ケルグループ(株) 富士貿易(株) 一般財団法人日本海事検定協会 (株)航海訓練所
----	--	---

平成23年度大学院海事科学研究科(海事科学専攻)修了者

電機	三菱電機(株) ソニー(株) (株)日立エンジニアリングサービス (株)日産製作所 (株)東芝 寺崎電気産業(株) (株)日立製作所 JFEエンジニアリング(株) (株)MORESCO テイカ(株) 出光興産(株) 住友化学(株) 東ソー(株) 旭化成(株) (株)住友金属工業(株) (株)神戸製鋼所 原子燃料工業(株) ニッパ(株) レンゴウ(株) Hitz日立造船(株) 川崎重工業(株) サノヤスホールディングス(株) 三井造船(株) (株)ニチリン	機軸 プラント 住友重機械工業(株) 三浦工業(株) グローリー(株) (株)クボタ ダイキン工業(株) ヤマハ(株) 日之出船舶(株) トランコム(株) (株)フジトラクスコーポレーション 三井物産(株) (株)ソフトウェアサービス (株)Murakumo ニッパ(株) (株)富士通ソフトウェアロジクス (株)イメージ (株)ヤマトビーエスシー セルコム(株)
金属・化学 原子力	(株)日立エンジニアリングサービス (株)日産製作所 (株)東芝 寺崎電気産業(株) (株)日立製作所 JFEエンジニアリング(株) (株)MORESCO テイカ(株) 出光興産(株) 住友化学(株) 東ソー(株) 旭化成(株) (株)住友金属工業(株) (株)神戸製鋼所 原子燃料工業(株) ニッパ(株) レンゴウ(株) Hitz日立造船(株) 川崎重工業(株) サノヤスホールディングス(株) 三井造船(株) (株)ニチリン	倉庫・物流 商社・小売業 (株)ソフトウェアサービス (株)Murakumo ニッパ(株) (株)富士通ソフトウェアロジクス (株)イメージ (株)ヤマトビーエスシー セルコム(株)
輸送用機器	Hitz日立造船(株) 川崎重工業(株) サノヤスホールディングス(株) 三井造船(株) (株)ニチリン	サービス 官公庁・その他 国土交通省 静岡県警 日本たばこ産業(株)